

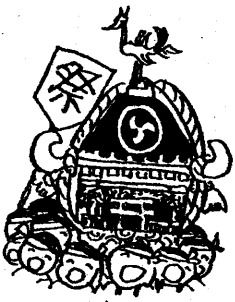
# イエティ(雪男)のたたり

上岡 積

4 天罰テキメン・身の破滅  
 標高3900mのヒマラヤの山の中で、このような豪華な食事が許されていゝものでしょうか。ちなみにその献立をあけてみましょう。

①チキンの照り焼き②茶わん蒸し③ズイキ?の煮しめ④煮物(シイタケ・ニンジン・ジャガイモ・サヤマメ)⑤キウリの漬物⑥白味噌のみそ汁。ご飯も日本のものと変わりなく、おかずの味も最高で、さすが日本人経営のホテルです。それなのにあまり食が進みません。あかあかと炭火が燃える暖炉を囲んでの語りにも、すこしも気持ちが悪くありません。ベッドに横になつてしばらくすると胸が締めつけられるように痛くなり、少し動けば息切れがして、体がだるくて身の置き所がありません。

「高所での行動はくれぐれも慎重にゆつくりと……」等々の旅の注意をすっかり忘れていたのです。というよりは、昔富士登山競争(富士吉田市役所前から登山道を通り頂上の浅間神社まで、



## 俳句

5月23日(土) 宇佐・青竜寺

合田 青幹

本堂を独り占めせる端居かな  
 正午打つ涼しき鐘の余韻かな  
 田所たねを

青竜の吐く岩清水有難し  
 礎礫し遍路の鈴もまた激し  
 吉本 伸秋

井の尻の渡舟今なし鱧を釣る  
 幹ねぢれ尚も整然振木咲く  
 中内みち代

夏めける寺鈴の音の行き交へる  
 湧き水の涼しき寺苑菖蒲咲く  
 小笠原さちを

百段を涼しく登る遍路鈴  
 五月幟即大漁旗翻ると

標高差3060m、距離21キロを4時間30分の制限時間内に登頂する競争)を完走したこともあり、富士山より少し高いぐらゐの標高だと、たかをくくつていて、高山病にかかるなどとは思つてもいなかったのです。それから15年の歳月が過ぎていたことなどすっかり忘れていたのです。自信過剰もいいところだ。医者はいないのだ辛抱辛抱。夜が更けるとともに息苦しさと不安感がつのつてきて、眠ることができません。そのうち我慢は美德でないことに気づき、午前2時ごろ酸素ボンベのお世話になり少しまどろむことができました。

エベレストはどこへ行ってしまつたのでしょうか。次の朝、山も朝食も吹き飛んで、嫌がる体に鞭打ちながら散乱する荷物をまとめました。少し動けばふらふらするし酸素マスクが届かないところでは少しまどろめてはベットへ戻り本当に苦勞しました。

酸素ボンベを担いだポーター氏と市原社長に抱きかえらるるようにして、普通なら20分で行けるというシャンボチエの飛行場まで

1時間近くかかってやっとたどり着くありさまです。ヘリコプターは味方が敵ばかりに縮まります。この際は味方ということにおきましよう。

ルクラに下りると胸の苦しきはおさまりましたが、な咳と痰が喉にかかつて、気分はあまり優れません。あとで渡邊さんが教えてくれたんですが、高山病の典型的な症状で、そのような症状が出ればコトトリあの世へいく人もあるというので心配されていたということ。知らぬこととはいいいながら、本当に迷惑をかけたしまいました。

反省会でダワさん(奥さんが日本人で日本語はペラペラ)の言つた言葉が事の真相を喝破していたようです。「一番元氣そうだった上岡さんが高山病にかかったのは、イエティの祟りだね」。げにおそろしのは、イエティのたたりと○○の冷水です。

だが、イエティも案外公平で、エベレストに遭遇してきたのは、ナムチエで早曉起きた小高い丘に登られた坪井先生ただ一人で、情眼を食つた輩にはエベレ

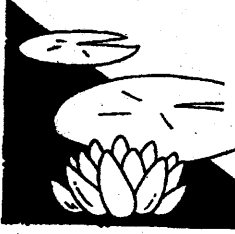
## 一芸員の消息

☆美馬須美子さん「雪のしずく」を出版 作品の前半は体験のエッセー、後半は創作。亡夫にあたる美馬敏男さんの闘病記も。また、女流画家協会展にも入選された由。

☆坂本正夫さん「土佐の習俗―婚姻と子育て」を刊行 県内各地の古老から取材、収録したもので、男女交際から婚姻、嫁の生活までの四部作とのこと。

☆現代詩人賞を受賞した片岡文雄さんの「人と作品展」が県立文学館で開催される。

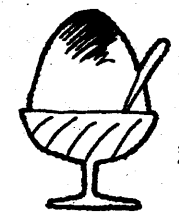
☆上岡積さん 6月7日から13日までフィリピンへ。ベニヤ板の材料ラワン材の乱伐で荒廃したネグロス島の植林をボランティアとして参加。



ストビューホテルでも、女神は微笑まなかつたという早起きは三文の得という尊い教えでもありません。

メンバー(敬称略)  
 近森昭三郎・近森忠子  
 田邊復逞・田邊克子  
 山本圭一・山本智津子  
 坪井幹之・中平定一  
 渡邊伶子・上岡 積

完



## 映画 「GAMA 月桃の花」

戦争の惨禍、愚かさ、不条理を描いた映画は数多い。この映画は本土唯一の地上戦が戦われた沖繩戦で、一老幼稚園長が体験した地獄の修羅場の物語りである。平和な村むらが米軍の海からの艦砲射撃、空爆によって一瞬にして焦土と化し、村人たちは家を焼かれ、いるいと横たわる死体を踏み越えて逃げ惑いながら一人また一人肉親を失つていく。とうとう奥深いジャングルの中のガマ(鍾乳洞)に逃げ込む。皇軍(大和人)ヤマトンチユ)の同胞の沖繩人(ウチナンチユ)に対する侮蔑的、高圧的態度、死と隣り合わせの極限状態の中で様々な人間模様、最後に米軍の戦争終結、投降の呼びかけに対して軍人達は「敵の謀略」だと言つて突撃して果てる。現在の情報社会からみると誠に愚かな行為だと批判できようが「一億一心」戦争へ全国民が総動員された閉鎖社会のマインドコントロールの恐ろしさを改めて知る思いだ。

☆今年退職した山下正寿さんより近況報告が届きましたので紹介します。

臨時教員時代から30年間高教組運動に参加し、今年の4月から新しい地域教育・文化活動の準備をしています。まず増多地域文化ゼミナール館の活動を再開し、5月末に沖ノ島に自然実感と休校舎(鶴来島小・中)の空屋活用調査をしました。鶴来島と弘瀬の区長さんなどと文化的な活用の道を実現しようということになりました。

今は、ゼミナール館の一階を宿泊用に改築しており、2日に1回ほどゼミOBのメンバーがやって来て、にぎやかに会をもっています。

7月5日午後1時から2時に中村中央公民館で開かれる「おりづる祭」に吉水小百合さんがきて、時の朝顔をしてくれることになり、その準備をしています。

「四十万乗舎」は、いよいよ7月からスタッフ(6名)が動きはじめます。(来年4月開舎)

戦後半世紀以上も米軍基地の75%を押しつけられ続けている沖繩の苦しみを我々大和人は本当に理解しているだろうか?

この映画をみながら何かうしろめたい思いで自問自答した。かつて本県も米軍上陸の拠点と目されていた。歴史に「もし」があれば決して他人事ではない。安保、沖繩問題を考える出発点として多くの人にこの映画を見てほしいと思います。(K)

(八月十二・十三日)  
 平和映画祭実行委員会主催  
 県民文化ホール(グリーン)  
 前売券 一般 一四〇〇円  
 シニア(65歳) 一〇〇〇円

### 「思い出の50年史」上梓

梅原憲作

今回の高教組「便り」は「高知県定時制通信制『思い出の50年史』(同編集委員会)の出版に「頼る」以外にはない。

高教組定通部の役員を中心に15名のメンバーが編集を始めたのは昨年初夏の頃だった。この一年、一番書局で顔を合わせたのはこの方々だった。当初の出版予定は昨年末、定通生徒の出席を促す如く気長に原稿の督促を重ね重ね、ようやく4月29日出版記念の日を迎えた。

B5版横書き、158ページには百名を超えるであろうこの50年の関係者の執筆、写真、資料で埋まっている。

全体の構成は4編から成り、まずグラビアでは「写真でつづる―定時制・通信制の学び舎」、―いま―の18校全部がアングルのいいカメラ写真、すべて宮川敏彦編集長が現地に足を運び、時を選んで撮ったものである。「むかし・1948年以後」はいまは跡形もない山田美良布分校、高森分校や現存する学校22校、すべて木造建ての旧校舎である。22校の「記念誌・史」から編集されたモノクロで「いま」と較べて「むかし」は「一校一校舎に個性と風格があった」と宮川氏は語る。

### 「山の会」山行計画

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 5月 三嶺              | 10月 網附森    |
| 6月 前工石山            | 11月 小豆島皇踏山 |
| 7月 北吹ウォーキング<br>ツアー | 12月 鉢が森    |
| 8月 金峰山・瑞牆山         | 1月 新年ハイキング |
| 9月 赤星山             | 2月 蟠蛇が森    |
|                    | 3月 つつじが森   |

< 来年度の山行計画 >  
 アラスカ(6月か7月) ネパール(10月)



「山の会」運営委員会

第1編、「戦後50年ほどどのような時代であったか―定時制・通信制の歴史をたどるために―」は12ページに及ぶ編集委員共同の労作。戦後半世紀の日本と高知の期中等教育の昔と今の問題点と課題がうきぼりにされている。現・退教職員必読のテキスト。

第2編、「あの日・あの時―学校生活の思い出―」はこの間をいわゆる昭和20(40年代)1948(75)4(50年代以降)7(5)の二つの時期に区分しこの間ともに学んだ生徒と教職員32名の手記で埋められている。どの記録も生々しい青春のドキュメントであるが、とくに前半の戦時中・後に学ぶ機会を奪われ、新制高校としてスタートした定通校の創生期と郡部校のそれが胸を打つ。

その冒頭の手記を寄せた佐川定時制53年卒の柏井秀夫さん、中3で海軍を志願し通信兵として南方最前線のガダルカナルに零戦戦闘機隊に配備され同期兵24名中ただ一人の生存者、「知識欲に飢えていた私は戦後の新たな教育の素晴らしさを知り、また教育の大切さをさらに痛感し、その後、後輩たちが地元で学べるようにと日下分校の創設にかかわる。祝賀会での「ママ・スコミを賑わす日高の柏井・」のユーモアたっぷり今を生きている方とお見受けした。

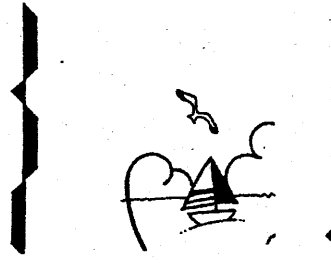
第3編、「半世紀のあゆみから」はこの間に問題や課題となったことなど「テーマ別特集」であり、飛行機(北校)と東京(室戸)

### 相撲三知識 二十七

林 勤

横綱土俵入りの型  
 本来ならば、今回は「大相撲を支える人々(3)」であるが、若乃花が六十六代横綱に昇進したので、横綱土俵入りの型について述べさせていただく。

横綱土俵入りには、雲龍型と不知火型がある。江戸時代末期の十代横綱雲龍と十一代横綱不知火の土俵入り



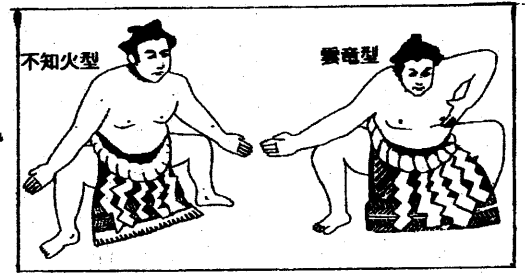
修学旅行の生徒OB以外17名は現・退教職員でまとめられている。この楽章は宮川コンダクターのもと14名の楽団員を中心に奏でる交響曲である。私も市商定18年のなかで「車椅子の少女」を深田真弓の遺したものを「を書かせてもらった。梅ちゃんの原稿は「牛のよだれ」のように切れがない。焦点がない」という深慮から頂いたテーマである。

第4編は貴重な「資料と年表」である。最後に、このほんの出版された「安芸タイプ印刷」から「この本を一読して、定時制高校がすぐれた教育実践の歴史であり、山田洋次描く『学校』そのものであり、編集編のようなシナリオでもつくれること、大変なヒット作になること、まちがいないのだと実感しました。執筆者の皆さんが、真の教育にその生涯をかけた。ドラマであり、権力の座にある方には是非とも一読を「のメッセー」を頂いた。昨年3月、「寅さんに会いたかった」の記念講演に来高した山田監督を木曜市と高知らしい喫茶店に主催者の一人としてご案内した。高知の高校生の話がでると、柔和なまなざしが一瞬光り、資料を送って下さいたの言葉が返ってきた。今それを思い出した。

りが美しかったので、それが伝えられたものと言われている。

二つの型の違いは、①せり上がり時に雲龍型は左腕をわき腹に当てて「守り」を示し、右腕は横に広げて「攻め」を表すが、不知火型は両腕をいっばいに広げて「攻め」の形を強調している(カット参照)。

②背中結ぶ綱の輪が雲龍型は一つ、不知火型は二つで左右に並んでいる。



今までは雲龍型が圧倒的に多く、不知火型は少ない上に短命、悲運というイメージがある。それは、不振の吉業山、晩年に横綱になったので在位期間が短かった琴桜や旭富士、盲腸炎のため若くして亡くなった玉海、親方との不仲などで一度の優勝もなく引退した双羽黒らから受ける印象であろう。

しかし、明治末期の強豪太刀山、昭和二十年代前半の相撲界を支えた羽黒山、常に力相撲を演じ、肩や腕などの盛り上がりから「ボイ」と言われた隆の里ら、輝かしい実績を持つ力士も勿論いる。

両手を広げて大地を持ち上げるような力感溢れる不知火型の土俵入りは豪華なものである。若乃花は小柄で筋肉質でもないが、土俵入りはなかなか綺麗で、不知火型もよく似合う。

何人もいる横綱が同じ型の土俵入りをするよりも、異なる型を披露する方がファンを喜ばせる。そのためか、若乃花は自分で不知火型に決めたそうである。

どの力士も横綱には「負けても」と一発勝負を挑んでくる。幕内力士の平均体重一五四キログラム、一三キログラムの若乃花、充実した心、技と抜群の名人芸で軽量の不利をカバーし、長く頑張ってきた。